

## 市長賞

題名 「十年後の津山について」

学校名 津山市立北陵中学校

学年 第2学年

氏名 仁木日陽里（にきひより）

十年後の津山について  
十年後、津山市はどのように変わっている  
のだろうか。津山は緑が多く自然に囲まれた、  
のどかな所だ。私は津山で生まれ、育ち、そ  
んな津山が大好きだ。だから十年後も変わら  
ぬ姿で残っていてほしいと思っている。  
少子高齢化が進み、人口が減り続けている  
今、どうすれば津山が十年後も変わらず残っ  
ていられるのだろうか。

以前、私は家族で横野の滝の素麺流しに行  
った時、そこに来ていた観光客の人が  
「なんか地味だったね。ちよっとかッカリだ  
わい。」  
と口にして帰って行くのを見た。正直、私が  
幼い頃から大好きな横野の滝を見てがッカリ  
されたのは悔しかった。少し々辛かった。津山  
は東京や大阪のようなおしゃれで都会的な都  
市ではないが、私は山、川、滝もあって虫の  
声も聴こえる、田舎でしか感じるこゝろがで  
き、田舎独特が沢山感じられる、落ち着きあ

る素敵な所だと思っっている。

私も都会と言われる大阪へ連れて行ってもらったことがある。友達家族と過ごした大阪は、とても活気があり、憧れていた通り、魅力的な都会だった。それでも津山に帰って、見慣れた風景や家族の顔を見ると、とても安心したし、落ち着いたのを覚えている。

同じ滝を見ても感じ方は人それぞれ、津山の魅力も都会の魅力も別々で感じ方も人それぞれだと思う。私は津山で育って十四年が経

つ。十四年間の思い出のほとんどは津山の中で作られた。沢山の思い出を作ってくれたのも、待つてくれる家族が住んでいるのもこの津山で、私が感じる一番の津山の魅力はここにあると思う。そうして考えてみると町の魅力というものは、都会であるか田舎であるかというよりも誰とどう過ごし、どんな思いがあるのかが大切だと思う。

十年後、より多くの人が津山を愛してくれている、そんな津山であってほしい。